

14メートルちくわ焼けた



長いちくわを抱え、世界記録達成を喜ぶ児童たち
= 3日、倉吉市仲ノ町の成徳小学校

ギネス申請へ

倉吉・成徳小
OBら挑戦

倉吉市仲ノ町の成徳小学校で3日、OBらが巨大なあごちくわ作りに挑戦。全長14・27メートルのちくわを焼き上げ、網走市の網走青年会議所が持つちくわの最長記録13・61メートルを更新した。同校関係者は「成徳」の名を世界に刻むため、ギネス記録に申請する。

校章がちくわの断面に似ていることから、同校のあだ名は「ちくわの食いさし」（食べ

かけ）。そうした歴史を地域一体で楽しもうと創立140周年を記念して総勢50人で記録に挑んだ。

会場には平井伸治知事も訪れ、「世界に誇る名物誕生を期待」と激励。関係者は練り物を巻いた心棒を回して炭火で焼き、約1時間かけて完成させた。

ちくわは心棒を抜く段階で一部切れたが、実行委員会がギネスルールを確認したところ、焼き上がった状態で計測した長さで申請可能といい、石田耕太郎市長と谷本修一議長が記録認定に署名した。

挑戦を見守った網走訪問団関係者は「地域一丸の姿を見せてもらった。もう勝ち負けは関係ない」と話し、児童たちは記録更新に大きな声で万歳。6年生の山田天爽君(12)は「6年間で一番心に残る出来事」と笑顔で喜んだ。